

【学級活動・小6・（1）学級や学校における生活づくりへの参画】①

育成を目指す資質・能力

- （知識・理解）運動会の表現運動の方向性を話し合うために、協働して実践することの意義を理解し、話合いの進め方や合意形成の図り方を身に付けることができる。
- （思・判・表）運動会の表現運動の方向性を決めるために、多様な意見を認め合い、よさを生かし合いながら考え、伝え合い合意形成しようとしている。
- （学びに向かう力）学校生活をより豊かにするために、多様な他者とよりよい人間関係を形成し、協働して運動会の表現運動の決定に向けて取り組もうとしている。

ICT活用のポイント

多様な意見や考え方の視覚的共有と価値観のすりあわせを基にした合意形成を目指した授業。

【事前の活動】

- ・問題を発見し・確認する。
- ・議題：「6年生がやってみたい」と前向きになれる表現運動の種類を決めよう。

【本時の活動】

- ・計画委員を中心に解決方法等を話し合う。
- ・互いの意見を認め合い、折り合いをつけ、クラスの考えをまとめる。

【事後の活動】

- ・他クラスの内容を確認し、学年としての考えをまとめる。
- ・本時の学習を振り返る。

事例の概要

- ウェブブラウザを活用し、計画委員が選んだ動画（ソーラン節、集団行動、創作ダンス、道具を使った運動）を視聴する。
- 表計算ソフトを活用し、グループの意見を集約する。
- アンケート集計ソフトを活用し、アンケート結果をグラフで提示する。

事例におけるICT活用場面①

- 話合いの場面で、表計算ソフトを活用してグループの意見を集約することで、話し合った意見を視覚的に捉え、共通点や相違点を比較する。

事例におけるICT活用場面②

- アンケート集計ソフトを活用し、自分のやってみたい運動を選択し、そのアンケート結果を円グラフで提示し、クラスの考えを共有する。

【学級活動・小6・（1）学級や学校における生活づくりへの参画】②

【事例におけるICT活用の場面①】



グループに分かれてICT端末を活用し、4種類の表現運動（ソーラン節、集団行動、創作ダンス、道具を使った運動）の魅力について意見を出し合っていた。ICT端末を活用することで、声に出して表現することが苦手な児童も積極的に意見を出し合う姿が見られた。各グループが集約した意見を、大型提示装置に提示し、多様な意見を共有することで、共通点や相違点を比べ合い、4種類の表現運動の魅力を深められるようにしていた。

話合いの場面では、表計算ソフトを活用し、グループの意見を集約することで話し合った意見を視覚的に捉えることができた。

【事例におけるICT活用の場面②】



アンケート集計ソフトを活用することで、自分のやってみたい表現運動を選択する際に、友だちの意見や多数の意見に左右されずに、意思決定を行うことができた。子どもたちからは、多様な意見を認め合い「2種目を合体したらどうだろう」という意見や「親が見たいのはこの種目かな」といった親目線の意見が出るなど、意見に広がりが見られた。教師が、子どもたちの意見の共通点を引き出し、視覚化してまとめにつなげていた。

アンケート結果を円グラフにまとめ提示することで、クラス全体の考えを視覚的に捉え、共有することができた。

【活用したソフトや機能】

- ・表計算ソフト
- ・学習支援ソフト
- アンケート集計
- グラフ作成
- ・大型提示装置